

やまぐち子育て福祉総合センター実績報告

専門研修「0～5歳のつながりあそび」

日 時・・・平成28年9月3日（土）14:00～16:00

場 所・・・山口市立山口保育園 2階遊戯室

講 師・・・つながりあそび・うた研究所 所長 二本松はじめ先生（他1名 宮本さん）

参加人数・・・67名

内容・・・二本松はじめさん作詞・作曲の曲を中心に、実際に体を動かし、歌って遊びながら、つながりあそび・うたの実践研修

I. 実践したつながりあそび・うた

◇「ひとりじゃないさ」（ピカリンベスト『つながりあそび・うた1』収録）

みんなで輪になって歌い、研修がスタートした。

◇「なにかななにかな」（ピカリンベスト『つながりあそび・うた1』収録）

◇「あくび」（『ピースマンがやってきた！』収録）

あくび、くしゃみ、なみだ、おなら…体から出るものでいろいろ楽しめる。

◇「ゴシゴシゴシゴシ」（ピカリンベスト4『どっこいしょどっこいしょ』収録）

野菜を洗うあそびうた。ペアになった相手の体中あちこちをゴシゴシと洗う動きやスキップが楽しい曲。

◇「おさんぽおさんぽ」（ピカリンベスト5『バンバンザイ』収録）

絵本「だるまさんと」（作・絵 かがくいひろし／ブロンズ新社）からできたあそびうた。絵本と一緒に楽しめる。

だるまさんや出てくる果物のユーモラスな言葉や動きが愉快的なふれあいあそび。

◇「ひっくりおやこ」（ピカリンベスト『つながりあそび・うた3』収録）

子どもを背中に乗せて揺らしたり、必死でつかまる子どもを最後はひっくり返って振り落ちるあそびうた。

改まってする“うたあそび”ではなく、普段の生活の中で大好きな先生とこういうあそびで気持ちをほぐしたりじゃれあったりする時間が大事。

◇「ビタミン愛」（ピカリンベスト『つながりあそび・うた2』収録）

4人組でひとりが真ん中で種になって座り、他のお友達も種役のお友達の周りを手をつないで歌いながらまわる。今回は歌詞の「はる」を「あき」に換えてあそんだ。

◇「なんかでるぞ！」

掛け声♪なんかでるぞ なんかでるぞ 1・2・3！

この後にリーダーが叫んだ動物の字数の人数が集まり、手をつないでその場に座る。残った人がリーダーになって繰り返すあそび。

◇「動物家族」

- ① 3文字の動物ってどんな動物がいる？
- ② “ゴリラ”を三人で一文字ずつに分担する。「ゴ」の人「リ」の人「ラ」の人。
- ③ リーダーの“ゴリラの家族！”で今の3人組が集まる。
- ④ リーダーの“密猟者が来たぞ！”で新たな3人組になるが、文字の役割りは変えられない。

子どもは、なかなか3人組が見つからなくてもじもじしたり、自分から探しに行ったり、先生に助けを求めたりと色々な姿が見える。そうやってあそびの中で様々な経験をするのも保育のいいところ。

◇「大根漬け」

寝転がった相手を大根に見立てて洗ったり、塩を振ってもんだり押したり振ったりするふれあいあそび。

◇「夢わかば」（ピカリンベスト5『バンバンザイ』

ピカリンベスト4『どっこいしょどっこいしょ』収録）

土の中に眠っているちいさな“ゆめのたね”が大地の栄養を吸って“ゆめの芽”になり、木になり枝が増えて“夢わかば”になり、そこからどんな花を咲かすのか？それはぼくらがきめていく。好きな時期に、好きな季節に、好きな花を咲かせよう。“ゆめのたね”とは「こども」である。この歌には紙芝居と絵本もあり、歌詞の最後は“ぼくらはうまれてよかったよ ぼくらをうんでくれてありがとう”。

子どもたちは“ゆめのたね”。人とつながる喜びや命の大切さを伝えていきましょう。

II. レジュメ、研修内容より

「あそべやあそべ みなあそべ」

共歓から共感へ・・・子どもたちへ、そして子どもたちから

- ① 人は幸せになるために、人を幸せにするためにつながりあいから生まれてきた
- ② 抱っこしあって 見つめあって、微笑みあって…人は安心の世界の中で育つ
- ③ おもわずからだか笑っちゃう…人のつながりあいて楽しい（あそびは楽しい）
- ④ 生きる楽しさを奪うものに立ち向かう楽しさを…笑顔で、笑顔を広げよう
- ⑤ 子どもたちへ、の前に、あなた自身が（生きること＝人生）楽しんで

○心地よく、安心できる生活の大前提として、信頼できる先生との関係があること。

信頼できる大好きな先生とだから楽しめる。同じあそびでも、知らない人とでは楽しめない。子どもたちと人間らしい豊かな生活を送ってほしい。

○保育で子どもいっぱい学ぶ。子どもに育てられる保育士であってほしい。
子どもを抱くだけでなく、子どもが先生を抱いてくれる関係。
子どもに抱かれながら保育してほしい。